

WR1000

WR1000は、グラフテック社の商標です。

品番	GP・IBボード	価格	動作環境
W32・WR1000・R	ラトックシステム社	65,000 円 (消費税は含まれておりません。)	Win98SE/Me Win2000/XP Excel2000 Excel2002/2003
W32・WR1000・C	コンテック社		
W32・WR1000・N	NI社		
使用できる機種 WR1000			



機能

波形データを数値として、Excelシートに取込みます。
32チャンネルまでの波形を同時に取込むことができます。

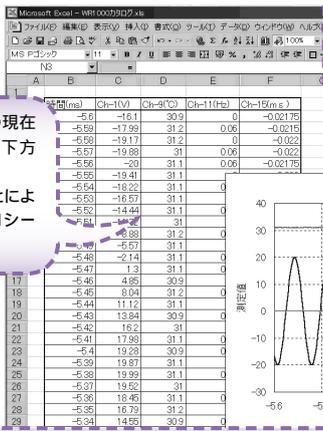
取込める最大データ数は、32Kデータまでですが、間引き機能により波形全体を取り込むことが可能です。例えば、400Kデータを、20個飛びで20Kデータとして取り込みます。間引き方法は、MAX、MIN、AVERAGE等から選択できます。

波形を受信すると、自動的に作図を行います。

注) スケーリングされたデータを取り込むことはできません。

概要

波形データは、Excelシートの現在のカーソル位置を先頭に上下方向に取込みます。(右図参照)
カーソル位置を移動することにより、複数の波形を1つのExcelシートに取込みます。



本プログラムはExcel上のアドインとして動作します。起動すると、Excelシート上に、このウィンドウが現われます。「取込開始」ボタンで波形データの取込みを開始します。取込を開始する前に、取込むチャンネル番号・メモリブロック番号・取込データ範囲を設定しておいてください。

Excelシートに波形データを取込んだ後、自動的に作図を行います。作図後、様式は使用目的に合わせて自由に变更してください。



操作説明

注) 本プログラムの操作方法は、ユーザ側で「R6245 / 46」付属の取扱説明書の内容を既に理解されていることを前提に書かれております。

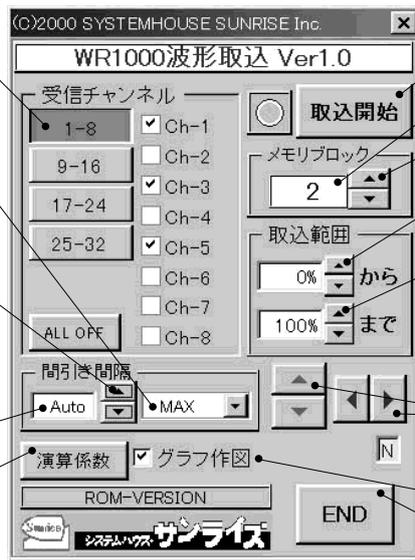
波形を取り込むチャンネルにチェック付けます。
ボタンで、チャンネル表示を切り換えて、各チャンネルにチェックを付けます。

間引き方法を指定します。
「SIMPL」は、単純に間引き間隔毎のデータをExcelに取り込みます。
「MAX」は、間引きデータ中の最大値をExcelに取り込みます。
「MIN」は、間引きデータ中の最小値をExcelに取り込みます。
「AVE」は、間引きデータ中の平均値をExcelに取り込みます。

取込んだデータを、間引きしてExcelに入力します。間引きすることにより、広範囲のデータをExcelに取り込めるようになります。例えば、320Kデータを間引き間隔10にすると32Kのデータとして取り込みます。「Non」は、間引き無しです。「Auto」は、指定した取込データ範囲が32Kデータ以内に収まるように、自動的に間引き間隔を設定します。間引き間隔の最大は、600です。

ここをダブルクリックで「Non」になります。

次ページ参照



測定器から波形の取込を開始します。

ここをダブルクリックすると番号が「+25」でインクリメントします。

取込むデータのメモリブロックを設定します。

波形データを取込む開始位置をブロックデータ長さの割合で入力します。

波形データを取込む最終位置をブロックデータ長さの割合で入力します。但し、取込データ数が32,000個を超える場合は、開始位置から32,000個までとなります。1度に取込めるデータ数は、32,000個までです。メモリブロック長を「4KW」に設定し、2000個目から4000個目までのデータを取り込む場合、「50%」から「100%」まで、と設定します。また、時間軸の値は、トリガポイントをゼロとした相対値で受信されます。

Excelシート上のカーソルを上下 / 左右に移動し波形取込開始位置を決定します。「スタート」ボタンをクリックするとカーソル位置から下方向へ波形データを取込みます。

波形を取込後、自動的に作図を行います。

アドインを終了します。

注1) 1度に取込めるデータ数は、チャンネル当たり32Kデータまでです。それ以上のデータ数を取込むためには「取込開始位置」を変更して、再度取込みます。但し、Excelの性質上、あまり多くのデータを取込みますと、データの表示動作が極端に遅くなりますから実用的ではありません。取込む波形のデータ数は、10Kデータ以内に収めることをお薦めします。波形の取込速度は、Pentium400MHzのパソコンを使用した場合、下記がおおよその目安となります。

・波形データ数 1チャンネル 16Kデータの受信時、約16秒 (GP・IB受信時間 = 9秒、Excelシートへの転送時間 = 7秒)

注2) 大量のデータを取り込む場合、なるべく高性能のパソコンを使用してください。(Pentium200MHz、メモリ96MB以上)

演算係数

スケール演算を行うチャンネルにチェックを付けます。チェックが無い場合、測定器からの受信値がそのままExcelに入力されます。

波形データの時間データをExcelに入力するときの時間単位を設定します。外部クロックによりサンプリングしたデータを入力するときは、「外部」を設定してください。

測定器側で設定した GP・IB アドレスと同じ値をここに設定します。

チャンネル	演算有無	係数A	係数B	単位名
Ch1-8	<input checked="" type="checkbox"/>	10	0.0	電圧
Ch9-16	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch17-24	<input checked="" type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch25-32	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-1	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-2	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-3	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-4	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-5	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-6	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-7	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	
Ch-8	<input type="checkbox"/>	1.0	0.0	

その他の設定
 GP-IBアドレス: 1 横軸単位: ms

その他の設定
 外部クロックの時の横軸係数: 1.0
 外部クロックの時の横軸単位: Deg

係数 A/B により受信したデータを下記の演算を行った後、Excel に取込みます。

Excel への入力値 = (受信データ - B) * A

注) 上記受信データの単位は

- ・電圧入力の時「V」
- ・周波数入力の時「Hz」
- ・ひずみ入力の時「u」
- ・温度入力の時「C」

となり、上記単位に換算後、演算を行います。

「単位」は、必要なら入力してください。

全チャンネルの演算にチェックを付けます。

全チャンネルの演算のチェックを外します。

外部クロックで取り込んだデータを受信するためには「外部」に設定します。

外部クロックでサンプリングしたデータを取り込む時、1クロックの係数を入力します。例えば、1度当たり100パルスのロータリーエンコーダのパルスでサンプリングした場合、「0.01」と入力すると横軸が読みやすくなります。

横軸を内部クロックの時間の代わりに使用する単位を入力します。